

開講日	2013年春期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	L:研究棟11階講義室A・B／S:病院西棟1階 臨床シミュレーションセンター
コースディレクター	名古屋市立大学病院リハビリテーション部 部長 和田郁雄		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】リハビリテーション(リハ)医療の特徴は、疾病によって生じた機能あるいは能力の障害を見極め、これに対してリハ医を中心に、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、看護師など多様な専門スタッフが協働して障がい者(児)個々の問題にアプローチする事にある。従って、疾病自体の治療を目的とする治療医学領域との密な連携が重要である。本講座では、リハ医療の主たる関連分野である中枢神経疾患や神経筋疾患、関節リウマチや骨関節疾患あるいはそれに付随するロコモティブ症候群、スポーツ障害などに対する最新の診断・治療、更には我が国におけるリハサービスの内容と最新の知見についてわかりやすく解説していただく。 【期待される成果】中枢・末梢神経疾患や運動器疾患あるいはスポーツ障害などを基盤とした機能・能力障害について理解を深めるとともに、リハビリテーション医療あるいは関連分野における最新の診断・治療、本邦で提供される福祉サービスの実際について学んでいただく。こうした学習を通じて、医療関係者が国民に対して質の高い医療・福祉サービスを提供し得る。		
目標とする 資格			

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
S-1 シミュレーションセンター	1	ここまで来た！！ 脳・脊髄の画像診断	中枢神経系の最新の画像診断、特にMRIでの特殊な撮像法などについて臨床例を示しながらご説明する。	4月18日	助教 小林 晋 名古屋市立大学病院 中央放射線部
L-2 講義室B	2	神経・筋疾患における診断、治療の進歩	急速な高齢化に伴い神経・筋疾患が社会問題になってきている。本講義では脳血管障害・パーキンソン病を中心に診断・治療法を分かりやすく概説する。	4月25日	准教授 松川則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学
L-3 講義室B	3	高次脳機能障害の捉え方とリハビリテーションの最近の動向	中枢神経病変による高次脳機能障害の捉え方、ADLに及ぼす影響、リハビリテーションへの応用法について解説します。	5月9日	教授 石井文康 日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科
L-4 講義室A	4	小児神経筋疾患の最近の知見	筋ジストロフィー、てんかん、片頭痛など、多岐にわたる小児神経筋疾患について、その診断および治療法について学ぶ。	5月16日	講師 安藤直樹 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学
L-5 講義室B	5	関節リウマチに対する診断、治療の進歩	生物学的製剤導入、関節リウマチ治療は劇的に変化しました。本講座では現在の関節リウマチの治療戦略について概説します。	5月23日	部長 速水芳仁 名古屋市立西部医療センター リウマチ膠原病内科
L-6 講義室B	6	頭部外傷の病態と慢性期後遺症(高次脳機能障害を含む)	外傷性脳損傷の急性期治療について実例を示し、後遺症(高次脳機能障害を含む)について脳機能局在の面から解説します。	5月30日	病院教授 間瀬光人 名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学
S-7 シミュレーションセンター	7	脳卒中急性期リハビリテーションの最近の動向	脳血管障害のなかで脳梗塞の占める割合は最も高い。脳梗塞に対する急性期リハビリテーションのリスク管理および機能回復を目的とした最近のリハビリテーションの動向について解説する。	6月6日	係長 堀場充哉 名古屋市立大学病院 リハビリテーション部
L-8 講義室B	8	ロコモティブシンドロームに対する運動器リハビリテーション	国民の運動不足と高齢化は深刻化しており、第2次「健康日本21」ではロコモティブシンドロームの予防が新たな目標となっている。本講義ではロコモティブシンドロームの予防、健康寿命の延伸のための運動器リハビリテーションについて解説する。	6月13日	講師 後藤英之 名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科
S-9 シミュレーションセンター	9	スポーツ障害に対するアスレチックリハビリテーション 最近の動向	スポーツ障害後のリハビリテーションは障害の原因を追究し、再発を防ぐことが重要である。今回は、障害を把握するポイントと復帰への神経生理学的因子を含めたアプローチを紹介する。	6月20日	教授 浅井友詞 日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科
L-10 講義室B	10	脊椎・脊髄疾患に対する外科的治療の進歩	脊椎・脊髄疾患の手術治療は、内視鏡手術に代表される低侵襲手術と、脊柱配列異常をよりよい脊柱バランスへ矯正し固定する大きな手術へと2極化している。その両者の最近の考え方と手術方法に関して概説する。	6月27日	講師 水谷 潤 名古屋市立大学病院 リハビリテーション部
L-11 講義室B	11	摂食・嚥下障害とそのリハビリテーション	病院、施設、在宅における摂食・嚥下障害への対応と予防としての口腔機能向上プログラムについて説明する。	7月4日	言語聴覚士長 豊島義哉 独立行政法人国立病院機構 東名古屋病院リハビリテーション科
L-12 講義室B	12	慢性期リハビリテーション医療 最近の動向	「慢性期＝維持期」としてのリハビリテーションだけでなく、近年は機能回復を目指した様々な実践がなされるようになってきた。それぞれの方法論について症例も交えて説明する。	7月11日	部長 小川鉄男 名古屋市総合リハビリテーションセンター 第1リハビリテーション部
L-13 講義室A	13	医療連携における回復期リハビリテーションの役割	リハビリテーションにおける急性期・回復期・慢性期の機能分化と連携のポイントを、脳卒中・大腿骨頸部骨折パスを中心に説明します。	7月18日	副院長 万歳登茂子 医療法人仁寿会 サニーサイドホスピタル
L-14 講義室B	14	がんのリハビリテーションとはーその実践ー	がん患者の病態理解とリスク管理。日常生活動作(ADL)や離床支援への工夫。および、ベッドサイド等で廃用症候群予防への取り組みや自律・自立を促すために工夫できる点などについて説明する。	7月25日	技師長 増田芳之 静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科
L-15 講義室B	15	障がい児・者に対する福祉サービスの現状	障がい児・者に対する福祉サービスを日常生活用具や住環境、所得補償等といった多角的な観点からご紹介します。	8月1日	主査 島田 満 名古屋市立大学病院 医事課患者サービス担当 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員)